

5. ミゾシダ属：品種アラゲミゾシダはその母種ミゾシダと同じ二倍体であった。

6. ミヤマシケシダ属：アソシケシダとオオメシダはいずれも両性生殖二倍体であった。オオヒメワラビは無配生殖三倍体であるが、ミヤコヤブソテツと同様に減数分裂時に二倍性と三倍性の二相母細胞を示した。したがってこの現象は、オシダ属に限らずヤブソテツ属および本属でも観察されるところから、無配生殖種の一特徴として、オシダ科全般にひろげられそうな傾向にある。

7. ヒメシダ属：オオバショリマは $n=36$ の二倍体、ニッコウシダは $n=62$ の四倍体であった。ヒメシダ属全体としてみると、基本数に関して、 $x=36$ のものと、それからかなり離れた数として $x=31$ のものとの2群がある(表 3, 4)。マントン博士もすでに指摘しているように、この属は細胞学的にはさらに別けられるべきであるかもしれない。

○アスナロの葉の奇形 (森 邦彦) Kunihiro Mori: Monstrous leaf of *Thujopsis dolabrata* Sieb. et Zucc.

ツナギガヤ (*Torreya nucifera* var. *articulata*) は、新潟県南蒲原郡田上村了玄庵境内の植栽木に現われた葉の奇形品で、天然記念物に指定されている。また同村の護摩堂山及びその附近にも、野生状態になっているものがあると言う。更に護摩堂の自生地に於ては、イヌガヤにも同様の現象が見られるとのことであるが、私は勿論この様な現象は見たことがない。御存知の様にこれは年毎の葉が表裏交互に出る奇妙な現象である。

さて、昨年7月中旬に当演習林に於て樹木学実習を行った所、或る学生の採集品の中に、植栽木アスナロの葉が一昨年のもは正常で、昨年のもは葉の裏面が表に出ており、本年のもはまた正常になっている腊葉があった。言わばツナギアスナロとも言うべきものである。毎年同じ場所でアスナロを採集をしてきたが、遂ぞ気付かずに過ぎてきた。ここで更めてアスナロにもこの現象があることを報告する次第である。尚この採集場所はアスナロの本数が多いし、積雪もある現在では調査も困難であるので、春になって該樹を探し観察してみたいと考えている。私はこの現象は一時的のものかと考えるが、資料が手近に得られたのでその成り行きを見守ってゆきたい。標本は東大に寄贈した。

(山形大学農学部)

正 誤 (Errata)

	頁 (Page)	行 (Line)	誤 (For)	正 (Read)
Vol. 44	348	2	蹊	蹊
	348	9	随	耕